

知事記者会見（平成24年12月25日）

●知事発表

（1）平成24年度秋田県芸術選奨について

●幹事社質問事項

（1）今年一年を振り返って

●その他

（1）知事選について

（2）今年の県政運営について

（3）マニフェストの発表時期等について

時間：13：00～13：30

場所：プレゼン室

(幹事社)

よろしくお願ひします。

では、まず初めに、知事の方から発表事項あるということで、よろしくお願ひいたします。

(知事)

はい。私の方から1件ございます。今年度の芸術選奨の受賞者が決定いたしましたので、お知らせいたします。

去る11日、今月の11日に開催されました芸術選奨選考委員会の選考結果報告に基づきまして、3名の方、その資料お渡ししてはありますが、彫刻の笠原幸生さん、書の長谷川長龍さん、それから声楽の長谷川留美子さん、この御三名の方の受賞が決定し、芸術選奨をお贈りすることになりました。また、1名に特別賞である、ふるさと文化賞を贈り、表彰することにいたしました。これは、音楽の部分で本田武久さん、先般、残念ながらお亡くなりになったわけでありますが、この方の作品に芸術選奨の特別賞、ふるさと文化賞をお贈りすることにいたしました。

この芸術選奨は昭和50年に創設されてきて、これまで活発な創作活動と優秀な作品を発表し、本県の芸術文化の振興に寄与されました方々を表彰するもので、今年が第38回目でございます。いずれ様々な形でそれぞれの分野で大変すばらしい作品、あるいは発表をなされましたこの方々に、お祝いとともに今後のご活躍をお祈り申し上げたいと、ご期待申し上げたいと存じますし、実は本田さんは私の高校の後輩でもございます。何回も私もあの歌を聞いておりますが、ご冥福をお祈り申し上げたいと存じます。

私からは以上でございます。

(幹事社)

そうしますと、幹事社からの質問に移らせていただきます。

毎年恒例となりましたが、今年1年を振り返って漢字一文字で表していただきたいということをお願いしているんですが、お願いします。

(知 事)

はい。あの、また下手な字ですけども、非常にわかりやすい、「散(ちる)」であります。解散の「散」でもあります。拡散の「散」、分散の「散」、まあ様々なものがこう離れ離れになるという、そういう、字の意味はそういうことでございます。

これは、これ全国のというか、秋田にというわけでなくて、秋田というよりも毎年こういうオールジャパンというか世界も含めたそういう形で字に、下手な字を書いておりますが、政治・行政に携わる者として、この8月以降、とにかくですね、まあ皆さん方のそれこそ新聞もテレビも、「解散」の字がね、なかった時はなかったんですね。近いうち、近いうちということで、そういうことで頭の中にはその解散の「散」という、これが随分私の中にも入っております。まあそういうことで解散をしたわけではありますが、それこそ政党もこれまでとは違って十幾つ、全部挙げろといっても名前が出てきません。いわゆる非常に政治的にも分散化傾向、まあ拡散したという、そういう状況があらうと思います。

最後には、これ若干その、民主党も3年3カ月で、ある意味ではそういう意味で政権がまあ散ってしまったという、そういう最後の語呂合わせもありますけども、いずれ解散の「散」という字に、とにかくこの今年の後半は躍らされたと、そういう意味でこれを書きました。

(幹事社)

すいません、去年は確か「災」という字で今年は「散」で、ちょっと何かこうマイナスのイメージがある字が続くんですが。

(知 事)

そうですね。あのやはり1年見ますとですね、どうしてもそういう形で、全国的に偉いお坊さんが「金」という字を書きましたけども、どうもその「金」というのはですね、部分的には非常にいいこともありますけども、オールジャパンとしてこう漂流をしているような感じがいたします。何とかですね、新年また新しい字を書きたいと思っておりますので、今年度はまた少し別のもうちょっと、何というんですか、この逆の方向に行けばなという願いで書くんですけども、いつも新年はそういうことで、どうもそうならないということで、とにかくやはり少しずつ日本のこの状況が劣化しているのかなという感じがします。

もう一つは、私、どうしてもですね、最近思うんですけども、これ、皆さん方に別に責任あるわけじゃないですけどもね、多いんですけども、この散るのが。やはり政治の面でもですね全ての面で、ものすごく何というか、表現が強くて、まあ非常に国民受け、あるいは住民向け、平たく言うと国民向けでしょうね、非常にそういうことですばらしいと思われ

る、あるいはそれが最近では改革だということで、ウワッと、バババッとこう打ち上げると、すごいんだなというんだけど、このこういうのは全部早く散りますね。だから歴史的に見てもですね、あの、これ難しいんですよ。ただ、これ住民もですね、国民もすぐ忘れちゃう。日本の歴史からすると、どちらかというと劇場型でない、よく、何と申しますかですね、余り一点突破型じゃない形でものをやってると、そういうことが大体うまくいってますね。特に徳川家康なんか、まさにそうでしょう。ですから、織田信長、(豊臣)秀吉、徳川家康と、こうよく対比されるんですけども、一番、徳川家康というのは余り表面に出ずに静かに、語らず、余りその一つのこと、正面突破で一つのことグッと押し出さずに、ジワジワジワジワとやって最後はずっと長い安定した時代をつくった人です。そういう意味で、日本というのですね、どうもその最近その、芸能人でも全部そうなんですけども、ブワッと出てパッと散るとい、政治もそんな感じになってますね。ですから、これはやはり、できるだけ余り過度の人気があるとね、駄目になるのは早いんですね。人気がない人は大体いいこととして割と長く安定したことをするという、そういう若干の皮肉もあります。

(幹事社)

ありがとうございます。幹事社からは以上です。
各社から質問あればお願いします。

(知 事)

まあ秋田はね、今年は、ただちょっと一つ。秋田については、語るとね、今年前半はどうしてもちょっとよくないっていうか、マイナスのことが多かったですね。いいですかね、しゃべって、少し県内のことを。

もう一回ちょっと皆さんも頭をこう思い出してほしいんですけども、今年1月にTDKがですね、県内工場の再編の話が1月の末にありました。まあそこら辺からいろいろ始まったわけでありまして、2月に入ってすぐ玉川の温泉事故がありました。さらにエルピーダの破綻というものがあったわけです。2月、3月は、それこそ県議会では、がれき受け入れの問題でだいぶいろいろやり取りがありまして、4月にはがれき受け入れがスタートしたんですけども、4月の初めは例の爆弾低気圧で大変な被害を受けましたですね。また、北朝鮮が何か人工衛星というミサイル、あれまあ失敗したんですけども、そして4月に、(秋田)八幡平クマ牧場での例の熊の事件がありました。いずれその玉川とこの熊の牧場で大変痛ましく、5名の方が亡くなったわけでありまして。そういうことで、どうも前半はですね、いろいろ問題のあることが多かったわけでありまして。

ただ、6月にはですね“(全国)みどりの愛護のつどい”で皇太子殿下が御来県なさいまして、その頃から少しようやく、大型製材工場が完成したり、7月には“エリアなかいち”が完成、あとは7月にはですね五十嵐選手がフライ級のチャンピオンになった。そういう中で、8月にはロンドンオリンピックでバレー(ボール)の江畑選手、あるいは(新体操)深瀬選手が活躍したと。でまた、甲子園でもね今年、秋田商業が勝ったと、初戦突破ということでありました。その頃から若干、領土問題が拡大して、本県の、特に中国との関係で一部訪問が中止になったようなことがありましたけども、ただ、9月に入っても

割と、例のお酒がIWCで、世界一になるとかですね、3カ所のジオパークが決定されるなど、あるいは10月になると義平福の全国の(和牛能力)共進会で2位ということ、そういう中で“(全国農業)担い手サミット”にまた皇太子殿下がおいでになると。11月にはスーパーこまちが発表されたということです。さらに、12月に入ってホッキョクグマの赤ちゃんが誕生したと。

そういうことで、どちらかという前半がどうもそういう事件性のものがあって、後半はまあまあ割とこう秋田が全国的によい話題で出ることが多かったと思います。

あと、9月からの例の首都圏の“あきたびじょん”のPRというかイメージアップ作戦も、どちらかという秋田は宣伝が下手だなという、よく言われてましたけども、久々に、東京へ行くと秋田県人会の方々、あるいは秋田県人会以外の方々も、「いや、いいことやってるな」、「あれはよく目立つな」という、「思い切ったことやったな」ということで、だいたいその、今まではいつも「何と知事さん、秋田だば宣伝下手でな、何とかしてけれ」ってというのが、ちょっと違った感じがいたしました。

ただ最終的に衆議院議員の総選挙が16日にありまして、一つのこれがまた大きな変わり目になるというのと、また、様々な課題が大変多いわけでありまして、国政ができるだけ安定化して本来の機能を戻して、この新しい日本のあり方、大変漂流を続けている日本を立て直してほしいという国民の期待も高まったんじゃないのかなということ、まあ今年1年、私なりに、私としては全力で、体調の方もよくなりましたので、まあ全力で臨んだつもりであります。結果は別にいたしまして、真面目にやらさせていただいたつもりであります。

以上であります。

(幹事社)

では、各社から質問をお願いいたします。

(記者)

1年間どうもお疲れさまでした。

今、政治の話が出たので、ついでということでお伺いさせていただきますが、来年はですね知事選も含めて選挙の年で、また選挙の年でもあります。そこでですね、知事には、先程の先立っての定例会でご出馬を表明、あっすいません、その前の定例会でご出馬を表明されていますが、今回の結果を踏まえてなんですけども、と前回のことを対比してなんですけども、現段階でなんですけども3点お伺いしたいことがあります。

前回は無所属でご出馬なさったと思うんですが、今回も同じようなご出馬の方法をなさるかということと、それからあと、前回は自民党、社民党、それから連合さんにご支援をお受けになられたと思うんですが、今回も同じような要請をするのか、あるいは既に要請されているのかということとですね、それから前回と同じような形だった場合に、今回の国政選挙で自民党と社民党は当然その政策の隔たりから激しく対立しましたし、連合は民主党の主要な支持団体ということで、自民党と社民党、連合がもしその知事のご支援をするとするならば、県民ないしは国民に対して非常にわかりにくい形になると思います。まだ4月ということ、告示まで3カ月ぐらいあるとは思いますが、現段階での知事のご所感

とですね、今後のお考えということをお聞かせください。

(知 事)

はい。あの、私は、特別どこの政党の党员でもございませんので、少なくとも無所属という形になります。ただ、前回もですね、自民党、社民党、連合は、まあ政党の場合は支持ですけども、組合の場合は支持してないですから、本当は。自治労はやったけど、今回ね。ただ、政党の場合はですね推薦となりますと、やはりかなりその拘束される面も若干あるわけでありまして。支持となりますとちょっと弱いんですね。まあ、前は自民、社民が支持、連合が推薦という形になりました。今のところ今回もですね、いずれこれまでの県政運営からしますと、自民党、社民党、あとは連合の推薦議員、まあ議会になりますとね、連合の推薦議員の方々は、まずほとんど、まあ大半の議案に賛成をさせていただいてますし、特別、対立軸はないという形。

それから、最近、首長選挙でも、自社、自公、社民、民主、全部の推薦だとかね、支持の方法はだいぶあります。これはですね私は、国政とちょっと違います。いわゆる県政の課題、県ですね権能の範囲の中でのやはり政治的な取り扱いだと思います。ですから、まあいろんな政党はですね本部の推薦となる場合とその支部の推薦と、また支持だとか、違うんですね。ですから、例えば社民党さんにしても、実は秋田県政におけるものについては自民党と社民党のスタンスというのはそんなに違いません。ほとんど同じです。やはり県の活力をいかに維持、保つかという、そして前に進めるかという、基本的にはですね。まあ中央になりますとですね、憲法の問題、あるいは国防、自衛隊の問題だとかですね、相当大きな問題がございますけども、いずれもこれですね県に決定の権能がないんですね。

ですからやはり、地方の選挙において国政の対立するところが、これが一緒の行動をするということをおですね、論理的にはこれは別におかしいことでは何にもない。憲法問題、県で議論できないですからね。議論はあったとしても決定権ないです。決定権ないものに対して対立はないんです。ですから、これはそういう意味で、国政選挙は少なくともね、そういう形になってませんけども、まあ首長選挙は、地方自治体の選挙はですね、もう全国的に国政で対立しているところも一緒にやっていますので、これは特別問題ないんじゃないかと思えますね。

それから、現在のところということではありますが、今のところ、というか私としては、前回もですね全ての政党と連合にマニフェストをお届けして見ていただいた結果、あとは私の方から特別ですね、お願いするという立場ではなかったです。ですから今回もですね、ある程度の段階でそういうものを作ったら、やはり私はですね、前回、共産党までちゃんとお渡ししています。ですから、まあ少なくともその県内にですね、県会議員が出ている政党、あるいはそういうグループがですね、政党にはね、これはやはりきちっとお届けして、あとは評価していただくということで、特別こちらからそういう推薦をしてくださいますかという話は今のところしてません。ただ前はですね、それでご理解いただきたいということで、その結果として、そういう答えが返ってきたということでもありますので、まあそれは1回やったことをまた次の、全然別のことはやるつもりありませんで、いずれ2月議会でいろいろと多分新しいそのマニフェストのことが、議論が、まずそっちに行くでし

ようから、そういう中で評価をしていただいて、応援していただくのであれば私はやぶさかでない。これはどこの応援も受けます。論理的には、県政の問題に関しては国政と違ってそれは可能であるという前提であります。はい。

(記者)

わかりました。

(記者)

今年ですね、県政運営、自己採点すると100点満点で何点でしょうか。

(知事)

あのですね、なかなかそのうまくいかない点はいっぱいございます。何も弁解するつもりはなくて、大体、私は75点ぐらいはいただきたいものだなと思っています。

一つはですね、確かに経済関係がなかなかそう簡単にいかない。いろんな外的要因があったとしても、それはそれとしても、まあその分で20%ぐらいは、主にね、経済雇用対策でそのぐらいはなかなか、これは実感として県民の皆さんもそう思っているんじゃないかと思います。これが、まあこれは他の外部要因はあったといっても、まあそれは別で、結果としてそうですから、こちら辺は15点ぐらいはマイナスかなと。まああと、そんなに何でもかんでもすっきりいかない、県庁の中の事務ミスなんかもあったりして、そういうところで(トータル)20点ぐらいの減点はあるのかなと。

まああとですね、やっぱり自分としては大丈夫ですけども、昨年病気をしましたので、まあそういうことで大変県民の皆さんに若干まだ不安を抱かせている点もあって、これは自己節制してますので今は大丈夫ですけども、やはりそういう意味で去年の健康問題を引きずって、こちら辺は不徳の致すところで(マイナス)5点ぐらいということで。

あと、まあ私としては、先程の数字に表れないんですけども、思い切って例えば“あきたびじょん”やってみたら、最初はいろいろ議論あったけども、初めてですよ、ああやって外からね、いろんな外の社長さんからとか、誘致企業の社長さん、あるいは東京の県人会、あるいは全国版のいろんな大きなマスコミにあれが取り上げられたというのは、まあ初めてではないかと思うんです。そういう意味で私なりに、あれは私のオリジナルな何ていうんですか、アイデアですので、そういうことだとかですね、あと、まあ農業関係でもだいぶ芽が出てきておりますし、食品加工なんかも県民の皆さんがやる気を起こしてきたという、そういうこともございまして、まあ大きなことではないんですけども、義平福なんかも県挙げて一生懸命やったというそういうことで成果が出たなということで、そういう現象もございますので、まあそこら辺で75点ぐらいつけてもらいたいなと。

ただし、これは大学だとA B C Dで、Dは駄目ですからね、Bぐらいなんです。Aにはいかないです、Bぐらいなんです。Cはかなり成績悪いよと、Aはいいよと。まあBは、まあそこそこ平均かなという、そういうところで何とかごめんしてもらいたいと思います。

(記者)

もう一つよろしいでしょうか。

(知事)

はい。

(記者)

知事選のマニフェストなんですけれども、具体的に時期、いつ頃、どういった形で発表する形になるでしょうか。

(知事)

あのですね、これ非常に難しく、実はですね、基本的にマニフェストってこうなんです。1期目は、私全くヨーイ・ドンですので、まずマニフェスト。マニフェスト、今度、私、マニフェストと言うのかどうかね別にして、まあ公約でも、これを今度は具体化するためには総合計画的な計画にしなければなりません。それが元気創造プランですね。ですから、まず元気創造プランを総括しなければなりません。それに基づいて今度は作るんですけども、実は、ご承知のとおり私は全部自分で（パソコンを使って）打つんです。昨日もこの3日間、あっちこっち、資料をこう束ねて思い出しながらやっています。まあ当然、例えば元気創造プランなんていうのは、作られたものがありますので、あれを片方に置いて、審議会に出した片方の実績を置いて、いろんな委員からの（意見が）出ても、これ一生懸命やりながらね、結局最終的にはオリジナルで自分で、まあ今までの元気創造プランありますから、あれを踏襲するんですけども、あれはあれとして、それを今度は自分でまた手を加えてやりますので、相当。そのかわり、できた段階では全部頭の中に入りますね。人任せしないんです。やっぱりね、人任せが駄目なんですよ。

ですからまあ、それともう一つは、これが私があんまりそんな人気はわからないことの一つのあれでしょうけども、やっぱり昔から役人やってますのでね、こんなこと言ったって絶対無理だっていうのがいっぱいあるんですね。目標はあるんですね。経済的なものは目標は置くべきなんです。ただね、内部的なものでね、こんなこと言ったって財源はどこにもないとかね、こんなもの単独でできないとか、そういうことは私はやりませんから、そういうある意味では財源手当まで頭に入れてやるものですから、どうしても時間かかる。ですからもうちょっとかかりますね。

ただ、もう一つはですね、やはり当然その選挙に出る者として、いろんな後援会だとか当然議会の意見、そういうものを踏まえなければなりません。やっぱりこれね、意外と選挙っていうのは直前の意見というのはね、非常に大事にしなければいけません。アピール力ないんですよ。その直前の。そうするとやはり2月議会の一般質問あたりがね、ある程度、そこら辺なんです。その時にこちらもある程度考え方言いながらやって、ある程度のことをまた、私の気がつかないことなんていっぱいあります。

ああなるほどなっていることで、そういうことは入れた方がいいなというのがあって何やかんやありますのでね、やはりまあやるとすると、どうしてもですね1月では無理ですね、2月か、3月は21日告示ですから、そこまでは行きませんが、やっぱり県議会が終

わる頃までには全部、そこら辺でまとめなきゃならないと思ってます。

まああの、私作ると長くなるんですよ。理屈っぽいからね。あれ簡単ですよ。何々しますと、その背景あるでしょう。何々するためにはこういう状況だからこれに対してこういう手を打たなきゃ、これはこういうスタンスで、こういう方向から手を打つとできるって、私そこまで言うもんだからね、長いんだ。だからこうなるんですよ。みんなうんざりするんですよ。これを今度はね、これをぐっと凝縮する時には、今度はやはり選挙のやる者からすると、アピール力あるところを、アピール性があるものを幾つか、6つか7つ、そうでないとパンフレット書けませんからね。ここら辺、全部自分でやる癖ついてね、人にやってもらうと不満なんですよ。だからこれ悪い癖なんだけども、だから総理大臣にはなれないな。知事止まりでしょう。ただね、そのかわり、やっぱり自分なりにものすごい問題意識持ちます。調べます。もう徹底的に調べます。いろんなバック。ですから変な話、議会でもね相当やり取りしても、勝ち負けは別にして、そういう言葉は使わないんですけども、相当かなりね反論の説得性はあるはずなんですよ。

ということで余計なこといっぱいしゃべりましたけども、まあ2月中ぐらいをめどにします。

(記者)

知事選のことで一つだけお伺いします。相手候補が見えないままでの年明けを迎えそうなんですけれども、そういう状態で新年を迎えられるご心境をひとつよろしいでしょうか。

(知事)

相手が見えないというのは、結局そういうところで若干のね、何となく落ち着かない点もありますよね。例えば、小さな市町村だと相手がいないと本当に無競争だろうっていう、知事選挙で無競争もないでしょうから、いずれそういうことは考えません。あの、やはりですね、選挙をやる者としてはですね、どういう時でも楽に考えると駄目です。私もですからマニフェストはね、この3連休ビッタリもうやってみましたけども、ようやくその頭の中に整理されたものを字に落としてますけども、やはり私はこれからも全力で、まあ非常に強い対抗馬が出るという前提でやります。

(幹事社)

それでは、時間になりましたのでこれで終わらせていただきます。今年一年・・・

(知事)

大変お世話になりました。またひとつ来年よろしく申し上げます。年末年始に皆さんがゆっくり休めるように大きな事件がないことをお祈りします。私もそうであります。

どうもありがとうございました。